



会員寄稿 親子三代で〇〇〇！？

PTA副会長 菊池 敦

新型コロナウイルス感染症の拡大により、昨年から2年連続で、お祭りなどのたくさんの行事が中止されています。高校においても、学校行事やPTA活動がほとんど行われず、部活動でも、これまでの努力の成果を発揮する場や活躍の場が失われました。頑張ってきた子どもたちの気持ちを思うと、胸が痛いです。

部活動と言えば、2年前の4月、大洲高校に入学した息子に「部活は、何に入った？」と尋ねました。すると、「吹奏楽部に入った。」との答えが返ってきました。同じ中学出身の先輩に声を掛けてもらったそうです。その時思い出したのは、今から37年前、私が吹奏楽部に入部した時のことです。入学当初、私は、大洲市カヌー同好会に入り、大洲農業高校の生徒と共に、カヌーの練習に汗を流していました。しかし、本業の成績があまりにも悪く(確か最下位から2番目だったかな～(・.・;))親から「カヌーをやめなさい！」と言われてしまいました。そして、1年生の2学期途中でカヌー同好会から吹奏楽部に転身したのです。

カヌー同好会を辞めたものの、何か部活動はしておきたいと思っていました。あまり体力を使わないもので…、文化部で…、ピアノも習っていたし…と考え、吹奏楽部はどうだろうと思い、当時音楽担当の上甲先生にお願いし、年度の途中で入部しました。「あまり体力を使わないもので…」と思って入部したものの、吹奏楽部には、マーチングがありました。2年生の夏には、行進の練習や腹筋を鍛えるなど、先輩からの厳しいご指導があったのを覚えています。

私が吹奏楽部に入ったことを父に話すと、父は、「実は、自分も高校時代に吹奏楽部に入っていて、部を立ち上げたのも自分たちの頃だよ。」と話すではありませんか。父が吹奏楽をしていた素振りがまるでなかったのが、非常に驚きました。父の話によると、昭和32年に、部ではなく同好会として立ち上がったようです。その頃も、高校野球に応援はつきもので、球場に行くと、他の高校は、ブラスバンド部が派手に応援をしていました。しかし、大洲高校の応援には音楽がなく、盛り上がり欠ける。これではいけないと、当時の生徒会長だった坂本さんが声を掛け、ブラスバンド同好会を立ち上げ、野球の応援をしたようです。第1期として集まったメンバーは7名、その内、楽譜が読めたのは1名のみでした。管楽器を担当した生徒は、楽譜に楽器の管の番号を書いて、音を出したそうです。ちなみに父は、打楽器と指揮を担当したとの話で、「楽譜、読めたんかい？」と突っ込んでみたところ、答えは返ってきませんでした…。その後、同好会からブラスバンド部に昇格し、現在に至っているようです。

吹奏楽部の立ち上げに関わった父、成績不振のおかげ?!でカヌー同好会から吹奏楽部に入部した私、先輩とのつながりから吹奏楽部に入部した息子。伝統ある大洲高校で、親子3代にわたって吹奏楽部に関わることができ、不思議な縁を感じます。私たち親子は、血のつながりだけでなく、吹奏楽を通して3代がつながっています。

つながりの形はいろいろありますが、いま、このような時だからこそ、人と人とのつながりや、そこから生まれる思い出を大切に過ごしていきたいと思います。

